

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392900031		
法人名	株式会社 信樹会		
事業所名	グループホーム 城山の杜 1丁目		
所在地	〒028-1131 岩手県上閉伊郡大槌町大槌15-5-1		
自己評価作成日	令和3年11月1日	評価結果市町村受理日	令和4年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍において面会や外出が制限されている中でも、家庭的な雰囲気の中で快適に穏やかな時間が過ごせるよう、レク活動に力を入れ、野菜作りや流しそうめん、カルタやトランプ、貼り絵に体操など、入居者が笑顔で生活できるよう工夫しています。
更に入居者一人一人の人権を尊重した対応を心掛け支援しております。
医療面でも、主治医との連携が密に取れ、定期的な住診や体調面でも心配事も相談しやすい関係が築けています。そのため、看取り介護も医師や看護師とも24時間いつでも連携がとれ、最期まで寄り添える介護を実践できています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、三陸自動車専用道の大槌IC近くにあり、近隣には住宅地のほか、スーパーや小中・高校、病院等があり、利便性の良い立地環境となっている。コロナ禍のために、面会や外出制限などの様々な制約の中にあっても、利用者の人格の尊重に心掛け、思いや希望を聞き出し、寄り添った介護支援に努めている。運営面では、厳しい状況にあっても運営推進会議を中止することなく、十分な感染予防対策のうえで開催を継続し、委員からの意見を直接伺う努力を重ねている。また、医療との連携においては、事業所近くのかかりつけ医との連携体制があり、訪問診療や看取りの支援、24時間対応等が期待できる環境にある。防災の面では、大震災を経験して防災意識が高い職員も多く、近所の住民の協力を得た避難訓練が繰り返し行われている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年12月3日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームへの掲示や介護記録綴りに添付しており、常に確認し共有できるようにしている。	「入所者の人格の尊重」「安全・安心・衛生」「家族・地域との連携」という開設当初からの運営理念をスタッフルームに掲示し、職員への周知を図っている。日常のケアを通じて、利用者の人格の尊重に配慮し、安心・安全な生活の確保を基本とした支援を心掛けている。	開設当初からの運営理念に沿った支援が行われているが、開設から14年を経過しており、そろそろ内容の見直しを行う時期とも思料される。全職員が参加して作り上げる形での見直しを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により交流は持てていない。	コロナ感染予防対策のために、地域との交流活動は減少しているものの、事業所として障がい者施設の段ボール回収に協力したり、近所の住民が事業所周辺の草刈りをしてきている。なお、町からは福祉避難所の指定を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍により更に特別な実践はできていないが、以前は近隣住民の避難訓練参加や中学生の職場体験受入れも行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策を徹底し会議を実施できており、報告内容や意見なども職員全員に回覧しサービス向上に活かしている。	コロナ禍にあっても、運営推進会議は令和2年以降も中止とせず集合同開催を継続してきた。委員として近隣の住民や町議、消防団関係者等が参加しているとおり、地域との関わりが重視されている会議となっている。会議ではコロナ禍による面会制限の継続の話題などが良く話し合わせ、活発な会議となっている。	委員として地域の関係者が多く参加しており、高く評価できる。なお、地域の民生委員は地域福祉において大切な役割を担っているため、委員選任について検討されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への出席やその後の情報交換以外にも、業務やサービス、感染対策や対応についても相談にのって頂くなど、密に連絡を取り合っている。	介護認定申請等の際には、町の担当職員から様々な助言や指導を得ているほか、行政情報関連文書はメールなどで得ている。釜石地域の医療連携に関する広域行政会議にはリモートで参加している。また、災害関連情報については防災ラジオから適時に情報提供されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に研修を開催し、知識の向上と身体拘束のないケアに努めている。 玄関の施錠など、必要に応じてやむを得ない場合には、家族の了解を得て行っている。 現在は入居者の不穏が強くなる午後のみ施錠している。	職員5人で構成する身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催しており、今年は玄関の施錠の改善等が話し合われている。定期的な研修会も開催し、不適切ケアを問いかけて状況を振り返り、拘束防止の趣旨を再確認している。転倒防止のためのベッドセンサーは、家族の了解を得て全体で4人が使用している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、スピーチロックなどしないよう各自気を付けて支援している。 今後はもっと具体的な研修を開催したい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員へは資料を配布しただけの研修となっていたため、今後はもっと具体的な研修を開催したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分に説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時や状況報告などで電話をした際などにも、意見や要望を聞き取るようにしている。また、居担が家族や本人から意見や要望を受けた時には話し合い共有し、推進会議などでも報告している。	家族からは、利用料の支払い等で来所した際にお話しを伺うことが多いが、コロナ禍で続いている面会制限の解除の要望が多い。このため、11月末頃からの面会再開を運営推進会議で話し合うこととしている。利用者の中で数人だが意見等を話せる方がおり、美容院に行きたいなどの要望が出されており対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体研修会やユニット会議の他随時意見や提案を聞き取り反映させている。 代表も研修や会議に参加している。	全体の職員会議やユニット会議のほか、ミーティング等でも職員から意見が出されており、各利用者の支援内容について調整している。利用者の席替えや食事提供の仕方、ドアの修繕など、様々な事柄について意見が出されており、それぞれ改善されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から状況を把握し環境や条件の整備を行っている。 管理者や主任からも意見を聞き向上心を持って働ける職場づくりに努めている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や外部研修への参加など職員の経験や力量に合わせて進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍により交流は困難なため、研修への参加時に情報交換など交流を持つよう進めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時は職員全員で傾聴を心掛け、本人の要望や不安、思いを聞き取り信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応の担当者が家族の不安や困りごと、要望を聞き取っている。 その情報を職員間で共有、話し合いを行い安心して頂けるような支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の担当者や居室担当職員などでアセスメントを行い、必要とされている支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事手伝いなども含め、一人一人ができる事を行いながら、共に支え合い生活できるような関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍により直接会える機会はほとんどなかったが、毎月城山通信を発行し近況報告をしている。 必要な物の購入や受診など、家族にも協力してもらい支え合う関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により必要最小限で、美容院など関係継続の支援をしている。	コロナ禍のため外部との交流が少なくなっているが、その中でも、入居者の知人等から野菜や米などの提供を受けたり、馴染みの美容院に出掛けて整髪したりしている。お盆などの時期になると、家族の付き添いでお墓参りをしている方も居る。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格を把握しホールの席を決めている。 家事手伝いやレク活動を通じて入居者同士が関わり合えるよう支援している。 寝たきりの方には訪室時の会話を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も相談があれば対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話などから希望や意見を聞き取り、記録に残し他職員とも共有し支援している。	利用者の思いや意向などは、個人記録や申し送りノートに記録し、ユニット会議でも話し合っ情報共有している。特に夜勤の時間帯では、職員がゆっくりと会話をし、思いを聞き出す良い機会となっている。利用者からは食事や帰宅の希望などが多く出されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の基本情報をもとに、本人や家族から聞き取りを行い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりを大切に、介護記録や送りから過ごし方や状態を共有し把握している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ケアカンファレンスを行い、本人や家族以外にも、必要に応じて主治医や福祉用具の業者にも相談や意見を頂きながら介護計画に反映させている。	計画のモニタリングと見直しは6ヵ月毎に行っており、更新時にはサービス担当者会議で問題点や今後のケアのあり方について話し合われている。主治医等の関係者から意見をいただいております。計画に反映している。計画作成後は、家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にケアの内容や気づきを記録し情報共有を行っている。 情報をもとにケアカンファレンスを行い実践後介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意思を尊重し、気持ちや身体状況・状態に合わせて柔軟に対応している。 コロナ過で本人は行けないが、買い物などもその都度対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の必要な物は家族に購入してもらい、生活に困ることがないように支援している。 家族の対応が困難な方へも自立支援事業を利用し、支援員とも連絡を密に取り対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続か、往診にも対応して頂ける施設主治医かは、本人・家族の希望で決めている。 受診、往診ともそれぞれの医師と相談し適切に対応できている。	大半の利用者が、すぐ近所にある事業所の協力医療機関をかかりつけ医としている。他には、大槌病院や精神科医に通院する方もいる。大半が利用するかかりつけ医は訪問診療してくれるほか、24時間対応の診療体制となっている。看護業務は事業所の看護師が対応し、オンコール体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは24時間いつでも報告・連絡・相談ができる体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入・退院時には、看・介護サマリーなどで情報を共有している。 入院中の状態把握も、各病院の医療相談員と連絡を密に取合える関係を築けている。 退院前には、書面だけでなく実調の面会にも対応して頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に説明し、本人家族の意向を確認している。 終末期を迎えた際は主治医からの意見のもと、本人・家族に施設でできるケア、できないケア、処置等について十分説明し意向を再確認している。 実施時にはカンファレンスにて意向や方針、ケア内容など介護計画にそってユニットで取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の対応について説明しており、本人や家族の意向を確認している。また、入居後にもその都度、家族と話し合っており、看取りを希望する場合には、かかりつけ医の協力を得ながら対応できる状況にある。その他、意向に沿って特養などに変更となる方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師より急変時の対応など介護記録綴りに添付されている。 コロナ過により救命講習などは受けられていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの消防訓練には近隣住民にも参加してもらっている。 風水害訓練、緊急電話連絡網訓練と自主訓練も実施している。	ハザードマップでは津波や洪水の浸水想定地域とはなっていないものの、土砂災害危険地区となっている。火災想定避難訓練は夜間想定を含め、年2回実施しているほか、風水害訓練や電話連絡訓練も行っている。避難訓練では近隣住民の方の協力も得られている。3日程度の食料のほか、発電機等も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時には特にプライバシーを損ねないように対応している。 親しみやすい、失礼のない言葉で対応するよう努めている。	入浴や排泄時の介助の際には、特にプライバシーを損ねないように配慮している。排泄で失敗した場合には、本人だけに聞こえる程度に「大丈夫ですよ」と声掛けしたり、トイレの誘導ではジェスチャーでも伝えたりしている。入浴時には、羞恥心に配慮して周りから見えないよう配慮するなど、細かに対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いやりたいか？ やりたくないか？ 聞き取りながら対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人その日の気分と希望に沿って過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類が着用できるよう選んでもらったり、清潔が保てるよう理容・美容の手配もしている。入浴時には髭剃りや保湿にも気を配っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常的な食事の準備や片付けの手伝いをしてもらっている。 誕生日には好物を提供したり、レク活動で流しそうめんやかき氷、餃子や栽培した野菜、手作りおやつも一緒に作ったりして楽しんで頂いた。	調理は主に職員が行っており、利用者の好みも献立に反映させている。利用者は、半数の方がお手伝いをしており、米とぎや食材のカット、盛り付けなどを行っている。誕生会では、本人が希望する刺身や焼き魚、赤飯等を提供している。おやつ作りも行い、へっちょこ団子やギョウザ作りなどを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	普通・刻み・ミキサー食と一人一人に合わせて形状や量を変えて提供している。 水分も好みに合わせて麦茶や緑茶、甜茶やスポーツドリンク、とろみ付けやゼリーなどを習慣や身体状態に合わせて提供している。 夜間枕元へ水筒の準備もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声がけ促しにて自力または介助にてケアしている。 義歯は每晚洗浄剤で除菌もし、義歯もない方にはスポンジも準備頂き清潔保持している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し声がけや誘導、介助を行っている。 自立にむけ福祉用具(車椅子や歩行器)も本人に合ったものを使用できるように支援している。	排泄チェック表をもとに、各利用者毎のパターンを把握して適時の声掛けや誘導を行ない、自立に向けた支援に取り組んでいる。全体では自立の方が2人、オムツ使用が2人の他は、リハビリパンツ等の使用となっている。介護度4で入居した後、歩行器を利用してトイレで排泄できるまでに改善した方もいる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事等で予防しながらも、困難な場合は看護師の指示のもと下剤でコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	業務上、曜日と時間は決めているが、体調や気分による変更にも臨機応変に対応している。入浴中だからこその1対1の会話を持つようにしている。	週2回、月曜日から土曜日の午後入浴を基本としているが、利用者個々の希望や体調等に応じて柔軟に対応している。入浴時には、職員と1対1になる時間であり、「たわいもない」会話をしながらも、良いコミュニケーションの機会となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活パターンに合わせて、日中仮眠休息の促しをしている。 寝具類も季節や好みに合ったもの(重い布団など)を家族に準備頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人カルテに薬説明書を綴り、現在内服している薬を確認しやすいようにしている。 看護師より変更などの指示があった時には、様子観察を徹底し密に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の挨拶や片付け、レク活動のリーダーシップ、野菜作りの管理など役割がある。 時々家族からビールの差し入れがあり楽しんでいる方もいるが飲ませたがらない家族が多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により全く出掛けられていない。 天気の良い日に周辺の散歩程度の外出のみだった。	コロナ禍にあって、外出機会が大きく減っているが、天気の良い日にはホーム周辺の散歩や花を見ながらの日光浴を楽しんでいる。11月になって、久しぶりに近郊へのドライブを再開し、山田町の道の駅や公園で下車して散歩して楽しんだ。今後は感染予防に注意しながら外出機会を増やしていくこととしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で管理しているが、お小遣い程度を本人管理している方は2名のみとなっている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 城山の杜 1丁目

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	3名の方は携帯電話を持参しており、自由に連絡を取り合っている。 家族から了解を得ている方には、希望時電話でできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールへはレク活動で作成したものを飾ったり、常に整理整頓を心掛けている。 トイレの汚れもその都度掃除している。	ホールは、それぞれのユニットの食堂兼談話室が繋がっている造りとなっている。エアコンと換気扇、加湿器が設備され、日よけカーテンと併せて適温に温度管理されており、明るい光が入り清潔感がある。壁面には行事の写真や季節感ある貼り絵などの手造り作品が貼られ、切り花も飾られており居心地が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファもあり、気の合う方同士でおしゃべりしたり、一人になりたい方は居室でテレビ鑑賞をされたりしている。 自席も気兼ねなく過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に使い慣れたものを持ち込んで頂いている。 好きなところに置いて居心地良く過ごせるよう支援している。	居室は、エアコンや加湿器で適温に空調管理されており、クローゼットや洗面台が備え付けられ、利用者はベッドやテレビ、冷蔵庫、位牌などを持ち込んでいる。壁面には家族の写真やカレンダーなどが飾られ、それぞれに居心地良い居室空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや各場所に看板をつけ見やすいように工夫している。 歩く場所にも物を置かないように配慮している。		